



府中市長への『陳情書』と(前)市議会への『陳情』の結果と
考える会の「ホスピスケアの核となる施設」実現に向けての当面の活動について

小西 厚子

考える会の活動目的、「ホスピス」すなわち「終末期医療を支えるためのホスピスケアの核となるべき施設」を、府中市に設置するための支援を求めた市長への9,163名の署名付き『陳情書』および(前)市議会への『陳情』は、通信14号にご報告したように、市には医療機関(法人)に対して市有地の売買や賃貸できる「条例」がないということでした。市の支援は得られずに頓挫しています。

考える会を応援していただいている聖路加国際病院理事長日野原重明先生が、かねてより、また近くは、昨年5月2日の講演会の壇上から「土地さえあれば、建物の建築費などのお金は集められる。」と言ってくださっていたので、市有地の確保を陳情したのです。10月4日に百歳になられる日野原先生のご支援にお応えするためにも、考える会の『陳情書』についての見解を、野口市長に直接伺いたいとお願いして、7月11日に役員8名が市長に面談の機会を得て、参加した役員各自の思いをお話いたしました。私たちの考える「ホスピスケアの核となる施設」について、市長ご自身の見解は聞けませんでした。

そして、5月22日の第10回定期総会の中で、出席者の方々にはお話しした情報、「調布市で在宅療養支援診療所を運営している医師(*以下B医師とする)が、計画している有床の在宅療養支援診療所を、府中市内に土地が確保できれば、府中市に開設してもよい」という話が考える会にもたらされていることも市長にはお伝えしましたが、関心をお示しにはなりません。

現在、B医師が運営する在宅療養支援診療所(Sクリニック)は、院長・神経内科医のB医師、呼吸器内科医、循環器内科医、麻酔科医の4名の医師と、訪問看護ステーションおよび居宅介護事業所とチームを組んで在宅医療にあたられているが、重症の患者を診ているので、6床(4人部屋1、個人部屋2)くらいの有床の診療所を創りたいと計画をしている。調布市内に土地を探していたところに、考える会の話が出てきて、中断していること。診ている患者の3分の1(30名余)は、府中市民で、その中に神経難病の患者さんがいて、その方のためにも早く有床の診療所を創りたいとのこと。

また、B医師が、調布でなく府中に診療所を創ってもとお考えの背景には、在宅療養支援診療所の開設数も関係していると思います。私たちの調査(WAM NET・東京都在宅療養支援診療所)では、府中市には12箇所あるが、調布市には22箇所の診療所と1病院あるのです。人口25万人を超えた府中市民にとって、この在宅療養支援診療所の数で、安心していただけるでしょうか?

第29回勉強会でお話をいただいたながたクリニック(在宅療養支援診療所を併設)院長永田先生も、今後、超高齢社会を迎える府中市には在宅ターミナルケアがますます必要になる、ということでした。

国や都が在宅療養を進めている現在、府中市における在宅医療体制を考える時、12箇所の在宅療養支援診療所の実態、在宅療養している府中市民の状況を知りたいものです。

私たち役員は、B医師に土地を探すお手伝いをして、是非、府中に先生が計画している有床の在宅療養支援診療所を開設していただきたいと願っています。そこで、府中市内の民有地を探すためにいろいろな情報を集めています。会員の皆様にも、府中市内のどこかに在宅療養支援診療所を建てることのできる土地の情報をお知らせいただきたいと、お願いいたします。

本日の第30回勉強会は、在宅療養の患者様家族としてのご経験を荻野和子様、また地域看護専門看護師として在宅ホスピスケアを担われた宮田乃有様にお話を伺うことになりました。

「通信第15号」は、第10回定期総会要約と第29回勉強会の内容を中心に編集しました。

府中ホスピスを考える会 第10回 定期総会要約

日 時：平成23年5月22日(日) 午後1時30分～午後4時30分

場 所：府中市片町文化センター 3階 講堂

参会者： 会役員：小西・小沢・市村・窪田・三宮・宇田・荒川・平松・駒ヶ嶺・和田・市原
 会員35名・会員外1名(市役所職員)

開会挨拶：小西

- (1) 議長選出；会長より口頭で窪田副会長を指名、出席者拍手で承認
- (2) 第1号議案 平成22年度事業報告：会長報告、出席者拍手で承認
- (3) 第2号議案 平成22年度会計報告：宇田会計幹事報告、出席者拍手で承認
- (4) 第3号議案 監査報告：三宮監査役報告、出席者拍手で承認
- (5) 第4号議案 役員改選：役員候補があつたが辞退されたので改選なしとする
- (6) 第5号議案 平成23年度事業計画(案)：会長口頭で説明、市側への接触、市民への啓蒙、市の施設の紹介等、例年どおりで決定
- (7) 第6号議案 平成23年度予算(案) 宇田会計幹事報告、出席者拍手で承認
- (8) その他
 - NPO ボランティアまつり参加の応援を会員に計ったらよい。
 - 会員の中からもお手伝いしたいと申し出あり。
 - ホームページ作成は今年は都合悪い。
 - 会則とか運動の方向とかを知りたい。
 - 議員側より今までの市側への働きかけの経過を報告：村崎、遠田、西宮、奈良崎、小山(都議)、稲津(市から離れるが応援する)等 各氏。

閉会挨拶：小沢副会長

第29回勉強会の要約**ターミナル・ケアの現状と問題点について～医療連携と告知の視点から～**講 師 **ながた内科クリニック院長 永田 宏氏**

日 時 平成23年5月22日(日) 午後1時35分～2時30分

場 所 片町文化センター 講堂

講師をお願いした永田先生は、府中市在住三代目で、2000年12月に小柳町にながた内科クリニックを開業し、2003年4月から在宅療養支援診療所、訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所を併設して、<より豊かな地域医療のために>をモットーにして府中市民のために診療に取り組まれていらっしゃいます。

府中市における在宅療養支援診療所についてお話を伺いたいと、お願いしましたところ、快くお引き受けいただき、勉強させていただきました。

**講演概要****I. 医療法人社団卓心会 ながた内科クリニック紹介と訪問診療・訪問看護が開始になるまで**

ながた内科クリニックについては、ホームページを開いてみてください。

<http://www.nagata-naika.jp>

II. 現在の訪問診療・訪問看護がかかえる問題点**1. 訪問診療・訪問看護開始経路について**

- 1 依頼の連絡が入る＝病院、地域の居宅介護支援事業所のケアマネージャー、家族から直接電話および来院による。
2. コーディネーターが情報収集し、おおまかなところで受けられるか否か判断。

訪問診療・看護の空きがあるか。訪問可能な地域か。金銭的に大丈夫か。主な疾患は何か。精神疾患や整形外科的要素が強いかな等

3.主治医の情報提供書とコーディネーターが得た情報により判定会議を行う。

4.家族と面談。

情報収集（告知内容）、支援診療の仕組みや料金の説明、訪問看護の内容や料金の説明、医療保険適用か介護保険適用かなどをして契約。訪問回数の決定。訪問可能な曜日・時間の調整。駐車場の有無の確認（平成18年6月の道路交通法改正に伴い駐車禁止違反の取締りが厳しくなったため必要になる）。

2. 事例を通して医療連携と告知を考える

1.医療連携の視点から、問題点がなかった事例と問題点があった事例の紹介

2.告知の視点から、問題点がなかった事例と問題点があった事例を紹介

ターミナルケアがかかえる問題として、告知の有無があげられる。64例のうち、告知ありは3例のみ。告知は、患者が自分の病気について正しく理解するためにも必要である。告知していないために、家族がどのように介入してよいか良くわからない場合が多い。

看取りの場所としては、自宅（39）、病院（18）、ホスピス（5）、不明（2）

しっかりした医療と看護・介護者がいれば、自宅で看取りができる、ということです。

3. 患者・家族がかかえる問題点

1.経済的問題、特に3割負担の場合⇒在宅末期で訪問診療・看護をする場合、月に約15万円程度の負担となる。

2.主介護者の問題、独居・老々介護などで主たる介護者の不在または介護力の低下の場合は問題である。

3.介護者の負担の問題 長期に亘る介護や頻回な吸引などによる介護者の疲労。

4.告知の問題 自分の病気について正しく理解できていない⇒告知していないために家族がどのように介入して良いのか分からない。

5.介護保険の問題 介護保険の要介護認定を受けているか⇒手続きを開始してから、実際保険を使えるまでに最短でも1ヶ月かかる⇒認定されるまでに死亡のケースもある。

6.住居環境の問題 エレベーターの無い3階以上に住んでいる団地やマンションに住んでいる⇒患者は通院が困難。家族の負担も大きい。

4. 看護師がかかえる問題点

ネットワーク作りが大切=家族との連携、医師との連携他、事業所との連携（訪問看護ステーション・ケアマネージャー・ヘルパーなど）、知識・経験、看護師のターミナルケアに必要な質の向上。

5. かかりつけ医がかかえる問題点

24時間対応 在宅療養支援診療所はほとんどが医師1名であることを踏まえて、地域でのネットワーク作りが必要=かかりつけ医どうしの連携を図る、複数の訪問看護ステーションとの連携を図る、訪問介護ステーション（ヘルパー）との連携を図る、ケアマネージャーとの連携を図る。緩和医療や各種のカテーテル類に対しての知識とトラブルに対する処置がどこまでできるかが問題である。病状の変化（痛み）に対して迅速な対応ができるかの問題など。

その他、病院に対する期待・要望などについてもお話しになりましたが、割愛します。

そして、「ホスピス」は、施設であると共に、USAや英国のように制度でもあってほしい、一人一人の人生が最期まで、豊かな生活をする事ができる日本であってほしい、と永田先生がおっしゃったことは、考える会の私たちの願いでもあります。力強いメッセージをいただいた思いと同時に、府中市民が永田先生に診ていただいていること、診ていただけることに深く感激いたしました。（文責編集委員）

府中ホスピスを考える会講座実施歴

日付	テーマ	講師	(敬称略)
特01/10/28	がんと向きあったとき、あなたならどう生きていますか	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
1 02/02/17	「ホスピスの体験から」	ピースハウス病院ナース	杉本 真由美
2 02/04/28	「在宅ホスピスケアについて」	ピースハウス病院ナース	杉本 真由美
3 02/07/14	「緩和ケアで使われる薬について」	薬剤師(元ピースハウス病院職員)	玉井 照枝
特02/10/11	アサヒタウンズ特別講演会「日野原先生」		
4 02/11/24	「心と身体の痛みを癒すには」	くらしき作陽大学教授	篠田 知璋
5 03/05/18	地域に密着した在宅ケアについて	平林医院院長	平林 竹一
6 03/06/10	ホスピスセミナー	桜町聖ヨハネホスピスケア研究所長	山崎 章郎
7 03/08/03	「ヨーロッパのホスピス事情」	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
8 03/10/26	家で最期をむかえるために-在宅ホスピスケアの実際	ホームケアクリニック川越院長	川越 厚
9 04/04/18	「家族の立場からホスピスケアを見る」	府中ホスピスを考える会会員	駒ヶ嶺 泰秀
10 04/09/10	輝いて生きる-人生の後半を-	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
11 04/11/07	コミュニティで考えるこれからのホスピスケア	聖ヨハネホスピスケア研究所研究員	長谷 方人
12 05/06/05	夫をガンで見送って-入院治療3ヶ月後の不安-	府中ホスピスを考える会会員	森山 レイ子
特05/09/24	地域で生きる-尊厳ある生と死を求めて	聖ヨハネホスピスケア研究所長	山崎 章郎他
特05/10/30	いのちと響き合う絵本	ノンフィクション作家	柳田 邦男
13 05/11/26	更年期障害と子宮癌	東府中病院長	十蔵寺 新
14 06/03/26	人間のいのちと死-終末期医療からみる	医学博士・医療法人恵風会施設長	渡邊 寛宣
15 06/05/21	千倉市『花の谷』(ホスピス)の紹介	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
16 06/08/20	NHKビデオによるホスピスに関するQ&A	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
特06/09/09	永六輔 いのちを語る	ケアタウン小平・聖ヨハネホスピスケア研究所共催	
17 06/11/11	ときめく「命(いのち)」をいきる	青山学院大学講師	野村 祐之
18 07/04/01	さいごまで生きる施設-ホスピス-でのとき	ライフプランニングセンター所長	平野 真澄
19 07/06/24	「いのち輝かせて生きる」-こどもから老人まで	聖路加国際病院名誉理事長	日野原 重明
特07/10/13	鎌田実 いのちを語る	ケアタウン小平・聖ヨハネホスピスケア研究所共催	
20 08/01/20	「地域におけるホスピスケア」-患者と家族の心を支える-	医療法人社団イバラキ会	高野 和也
21 08/05/25	「ホスピスケアにおける訪問看護の役割」	医王訪問看護ステーション地域看護専門看護師	宮田 乃有
22 08/08/03	阿伎留医療センター緩和ケア病棟の現状	公立阿伎留医療センター緩和ケア科・医師	戸澤 育文
23 09/01/25	ビデオによる「ホスピス緩和ケアの歩み」	府中ホスピスを考える会副会長	市村 晴子
24 09/05/17	府中市における訪問看護ステーションの現状	府中市医師会訪問看護ステーション所長	芝尾 幾世
25 09/11/15	ホスピスケアの核となる施設の実現に向けて	ボランティアまつりパネルディスカッション	会の役員
26 10/05/02	府中でも実現したい 地域で 家庭で ホスピス・緩和ケアを	ケアタウン小平クリニック院長 聖路加国際病院理事長	山崎 章郎 日野原 重明
27 10/08/22	在宅緩和ケア「いつでも…緩和ケア」のために	ピースクリニック中井院長	永山 淳
28 10/11/28	府中で「ホスピス」を実現したい	府中 NPO・ボランティアまつり	会の役員
29 11/05/22	ターミナルケアの現状と問題点	ながた内科クリニック院長	永田 宏
30 11/10/02	家族の立場から在宅ホスピスケアを考える	在宅看護利用者 荻野和子:宮田 乃有(21 参照)	

会計より会員の皆様へのお願い 会費の払い込みをどうぞよろしくお願いいたします。勉強会・講演会等当日でも、郵便局への振込でも結構です。振込用紙ご入用の方は、会計までご連絡いただければお送りいたします。

会計 宇田ひさ子 042-363-9271

編集後記 今年の夏は連日酷暑に見舞われ、9月には台風15号の被害、都内と共に府中市内でも帰宅難民の方がいらしたとか、会員の皆様にはお元気で秋を迎えられましたか? 第30回勉強会にあわせて「通信15号」を編集いたしました。今年中に、B先生の在宅療養支援診療所のための土地・民有地を市内に探してご紹介したいと思っております。会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

「通信」編集委員 小西、荒川、駒ヶ嶺、和田

発行元 府中ホスピスを考える会編集部 連絡先 小西厚子 042-361-2823